

4つの散策ルート

「府内城の夢の跡をたずねて」

ルート①

☆府内城を起点・終点に、ジャングル公園を休憩場所として組み込んでいます。お散歩あるいは初級のウォーキングコースを目的としています。

☆府内城を出発し、城北西部の侍町を通り、船奉行屋敷跡、船頭町を経由し、堀川口へ向かい、ジャングル公園で休憩、周囲のプレートを見学し、ルート後半は笠和口から三之丸西口、侍町の現在の雰囲気を見ながら府内城に戻ります。（所要時間約60分）

「府内城 今昔」

ルート②

☆府内城の今と昔をたどる学習の場として位置づけています。講座や勉強会の会場として、市役所・アートプラザ・コンパルホールをルートに組み込んでいます。

☆府内城の諸施設、三之丸エリアの武家屋敷地の跡、町人町に残る町割りや山弥長者の伝説等、現在に残る江戸時代の名残をたどります。（所要時間約90分）

「府内商人の歴史をめぐる」

ルート③

☆まちなかで開催されるイベントの一環として、府内商人をテーマに、中央町エリアと府内・大手町エリアのコンパクトなふたつのルートを設定しました。

☆ガレリア竹町ドーム広場をスタートし若草公園でゴールするルートでは、府内商人の痕跡と大分カトリック教会・西新町天満社・光西寺をめぐるります。（所要時間約30分）コンパルホールを基点としたルートでは、城下町が栄えた頃の旧町名のプレートや江戸時代からの地割を訪ねます。

「府内の幹線道路をたどって」

ルート④

☆スタンダードな「府内の幹線道路をたどる」ルートで、世代を超えた学習教材として位置づけています。

☆当時の道が無くなった部分を、一部現在の通りに代えることで、当時の賑わいを感じることができます。スタート・ゴールを入れ替えることで色々なパターンが楽しめます。（所要時間約30～60分）

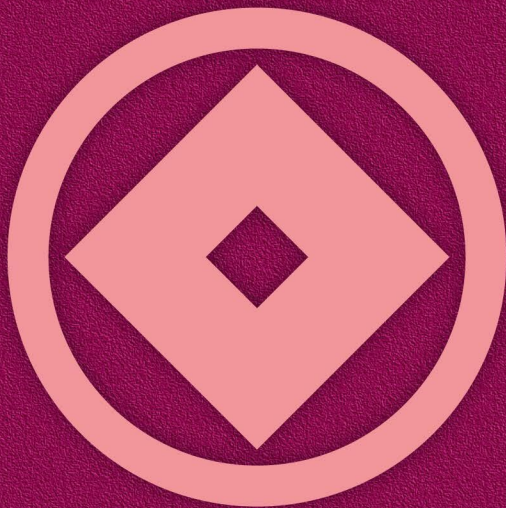
府内

ふない じょうかまち さんさく

城下町散策

ルートマップ

大分市中心部に残る江戸時代を訪ねて



このルートマップには、城・お堀・武家屋敷・お寺・昔の町名・伝説など、府内城下町の歴史がいっぱい詰まっています。

土地の記憶を訪ねて

現在、江戸時代府内城下町の風景が見られるのは、府内城周辺のみとなりますが、町を散策すると、建物や通り名称に江戸時代の町名(A, B-1, 2, 3・C, D, E-3, 4)が残り、町人町に由来する短冊状の細長い地割り(A, B-1・B-2, 3・C, D, E-4)や、武家屋敷地に由来する大きな区画の地割り(C, D-2, 3)も残っています。これら、現在に残る「土地の記憶」を訪ねて府内城下町を散策してみませんか。



かつて武家屋敷が建ち並んでいた北廣小路跡 町人町に由来する短冊状の地割り

笠和口(府内の玄関口)

笠和口(A-3)は、日田・玖珠方面のみならず、広く府内城下の玄関口として賑わい、その位置づけは鉄道が通り大分駅が開業するまで続きました。

現在、笠和口に近い大道入口交差点は、北九州と鹿児島を結ぶ国道10号線が交差し、熊本・長崎への国道57線、佐賀関・佐伯への国道217線の起点、高知・佐賀関からの197線、久留米からの210号線の終点となっています。

大分の玄関口を大分駅に譲り出したものの、府内の玄関口としての笠和口は今でも残っています。



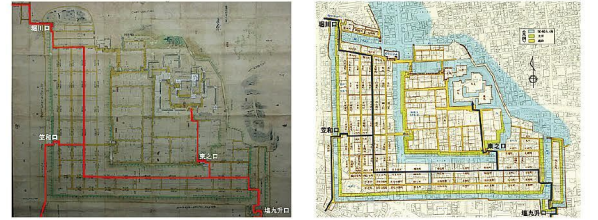
笠和口があったガレリア竹町西側入口



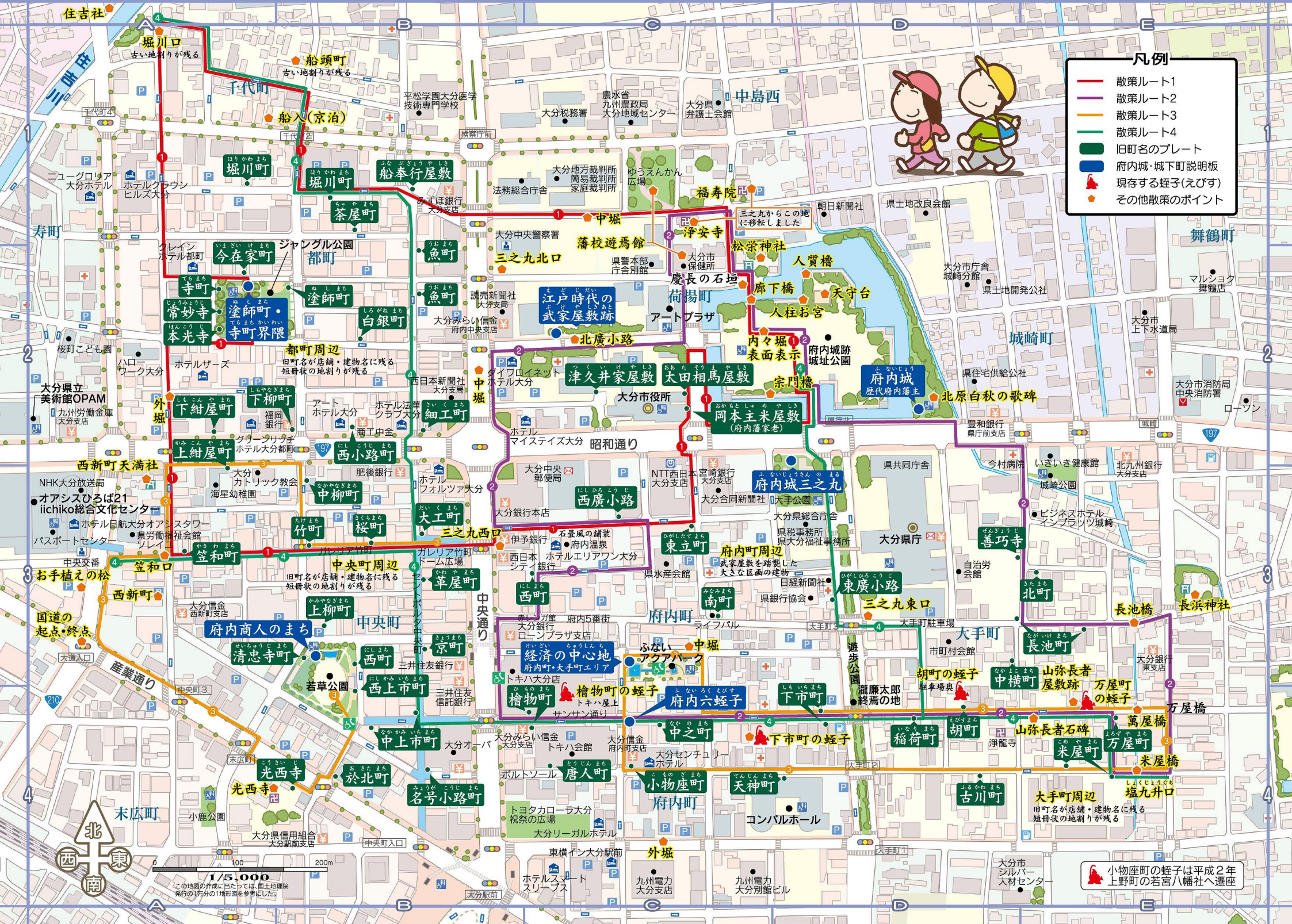
大道入口交差点の説明板

府内の幹線道路

城下町の出入口、堀川口・笠和口から三之丸に入るには、檜物町・中之町・下市町・稲荷町を、塩九升口からは、米屋町・胡町・万屋町を経由していました。この道を通り人やモノが集まりました。サンサン通りから萬屋橋前～米屋橋と通じる道が幹線道路の名残であり、今も当時を偲びながら散策することができます。



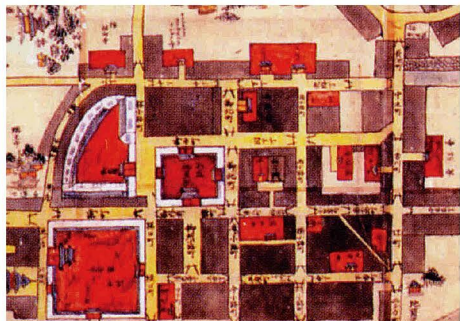
左「慶長十年 府内絵図」(大分大学学術情報拠点[図書館]蔵)
右 府内城下の復元図
赤・黒線は、各出入口から城下へ入るための主要道路。笠和口は肥後・筑前・筑後・肥前方面、塩九升口は日向・薩摩方面からの出入口であった。



中世府内町から移転した町

府内城下町には、大友氏の時代の中世府内町から移転した町が多くありました。桜町・唐人町・名ヶ小路町(名号小路町)・工座町(檜物町)・上市町・清忠寺町・御北町(於北町)・御西町・柳町・魚之町(魚町)・西小路町・今在家町・下市町・稲荷町・中之町・長池町・古川町・後小路町・小物座町・千手堂町(天神町)がこれにあたります。

旧町名プレートをめぐる、中世大友氏の府内町を探してみませんか。



中世大友氏時代の府内町を描いた古絵図

府内六蛭子

サンサン通りから大手町にかけて、六体の蛭子像が祀られていました。

今から約800年前、大友初代能直の頃、東国第一の「市」として賑わっていた下総古河(現茨城県)から工座町(現錦町付近)に勧請したのが始まりと言われていました。江戸時代になると、工座町の蛭子は檜物町に移され、周辺では市が開かれました。今も、中上市町を除く5体の蛭子があり、商売や町内繁盛の神として多くの人々から大切に祀られています。 ※小物座町の蛭子は若宮八幡社に遷座。



檜物町の蛭子



下市町の蛭子

胡町の蛭子

万屋町の蛭子

府内城と城下町にまつわる伝説を訪ねて

府内城とその城下町については、その成立期にまつわる二つの伝説が知られています。

一つは、困難を極めた府内城築城に際して人柱となったお宮の伝説で、府内城天守台の西側石垣の下の水辺にはお宮を祀った祠があります。(D-2)



人柱お宮の祠



山弥長者屋敷跡の碑

もう一つは、府内城下町成立期の山弥長者という長者の伝説で、豪邸を構えたといわれる万屋町には、山弥長者屋敷跡の碑が建てられています。(E-4)

